

INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナーの開催（１）

ー平和教育を中心にー

研究代表者	草原 和博（社会系コース）
研究分担者	川口 広美（社会系コース）
	金 鍾成（社会系コース）
	川口 隆行（国語文化系コース）
	丸山 恭司（教育学系コース）
	吉田 成章（教育学系コース）
	桑山 尚司（グローバル教育コース）
研究協力者	大坂 遊（教育ヴィジョン研究センター）
	小松真理子（総合科学研究科・博士課程後期）
	正出 七瀬（教育ヴィジョン研究センター）
	吉田純太郎（教育ヴィジョン研究センター）

I 研究の背景と目的

本プロジェクトは、広島大学教育学部が 2019 年に加盟した International Network of Educational Institutes (INEI) との連携を実質化するために、教育ヴィジョン研究センター (EVRI) を中心に学術交流プログラム：Peace Education and Lesson Study for Teacher Educators（以下「PELSTE」と称する）を企画、実践することを目的とする。これまでの PELSTE の成果は、草原・木下・松宮ほか（2020）、草原・松宮・三好ほか（2021）、草原・小山・川口ほか（2022）に詳しい。一連のセミナーは、INEI 加盟大学内における広島大学の認知度を高め、本学が拠点となって国際共同研究を推進できる体制を構築することを長期的な目的とする。

広島大学教育学部が、日本の代表加盟大学として、また広島の地にキャンパスを置く大学として IENI に貢献しようとするとき、他大学にはない広島大学ならではの「強み」を活かすことが求められる。本プロジェクトでは、その強みとなる研究領域を①授業研究と②平和教育に求め、交流プログラムを組織することとした。そして、短期的には広島大学がハブとなって、①教師教育のための「授業研究」のあり方を協議する研究ネットワークを構築すること、②各国の多様な状況下で実践されている「平和教育」とその教育実践の語りを記録した共同データベースを構築すること、を目指すこととした。

本プロジェクトでは、この短期目標を 3 カ年で達成することを期する。毎年 INEI 加盟大学から若手研究者及び大学院生を広島に招聘し、1 週間程度の特別交流プログラム PELSTE を開催する。PELSTE の活動はホームページ/SNS 等を通してリアルタイムで発信したり、成果をセミナーや国際会議等で発表したりする。それを 3 カ年繰り返し、研究ネットワークとデータベースの構築につなげることで、目標を達成したい。

3 カ年計画の 1 年目の 2022 年度は、平和教育に焦点を当て、2023 年 2 月 20 日から 24 日にかけて交流プログラムを実施することとした（以下「PELSTE 2023」と称する）。ただし、本報告書の執筆時点では PELSTE 2023 は未了である。そこで本報告書では、PELSTE

2023 のプログラムと平和教育者の語りアーカイブの開発の 2 点に絞って、成果を中間報告する。

(草原和博*・川口広美・金 鍾成・川口隆行・丸山恭司・桑山尚司)

II PELSTE2023

1. 開催のねらいと経緯

本報告書の執筆者は、PELSTE2023 の企画運営グループを組織し、準備を進めた。

PELSTE 2023 では、海外渡航の制限が緩められたことに鑑み、開催形式を対面に切り替え実施することとした。またグループでの協議を通して、PELSTE2023 のテーマを“Can We Universalize the Localized Peace Education?”(地域の文脈に根差した平和教育を普遍的に語ることは可能か?)に設定し、以下のことを目標とした。

- ・各国の平和教育の実践と概念をめぐって意見公開を行い、「平和教育」の意味を国際的な視野から定義すること。
- ・広島でのフィールドワークや平和教育との対話を通して、ヒロシマの平和教育の特殊性と普遍性について議論すること。

開催にあたっては、2022 年 10 月に INEI 加盟大学 11 機関に開催案内を送付し、参加者の推薦を依頼した。締め切りまでに 7 名の推薦を受けた。選考の結果、以下の 2 名の招聘を決定した。なお、PELSTE 2021 と PELSTE2022 のオンライン参加者の内、平和教育に関心を寄せた参加者にも声をかけたが、スケジュールが合わず、やむを得ず招聘を断念した。

- ・ Lina Rangel Díaz 氏 ウィスコンシン大学マディソン校 (アメリカ)、大学院生
- ・ Timothy Mark Bush 氏 メルボルン大学 (オーストラリア)、講師

参加者とはオンラインで打ち合わせを 2 回行い、相互理解を深めた。また事前課題として、後述する「ヒロシマの平和教育者の語りアーカイブ」の視聴を求めるとともに、各国の平和教育者の概念と実践を紹介できるように準備を依頼した。

2. 開催のねらいと経緯

上の目標を達成するために、以下のプログラムを策定した。初日と最終日に“Can We Universalize the Localized Peace Education?”の問いに答える場(①⑫、以下のスケジュールと対応する)を設定する。その中間には、日本や広島で展開されてきた「平和教育」の歴史や理念・実践を概観するとともに(⑤⑧)と、その基盤となっている広島の記憶や証言を経験する機会(③④⑨⑩)を配置した。また新たな平和教育の模索として、「越境的な対話」や「真正な対話」を意図した小学校(⑦)及び大学(⑪)の取組を観察する場を設けた。

- ・ 2 月 20 日 (月)

① 各種の表敬訪問

② 導入報告会：事前課題の報告と各国の平和教育の概念と実践の共有

- ・ 2 月 21 日 (火)

③ フィールドワーク 1：広島平和記念館、平和公園等

④ 被爆証言の聞き取り：証言の教育的意味と各国の平和教育との接点の省察

⑤ 広島大学附属中・高等学校の視察：ユネスコスクールの取組や平和教育カリキュラム開発の聞き取り

- ・ 2月22日（水）
 - ⑦ 小学校・社会科国際理解学習の観察：東広島市立小学校5校による外国人市民と平和共生をテーマとしたオンライン地域学習を観察
 - ⑧ 「日本の平和教育の歴史と特色」セミナー：平和教育研究者の村上登司文氏（京都教育大学名誉教授）の講話を聴講
- ・ 2月23日（木・祝）
 - ⑨ ヒロシマの平和教育者10名との対話：「ヒロシマの平和教育者の語りアーカイブ」にライフヒストリーを寄せている教育者との直接対話。彼ら彼女らの平和教育の概念や実践と各国のそれとを比較
 - ⑩ フィールドワーク2：ヒロシマの平和教育者の案内で、広島市内の原爆遺構を訪問。広島城周辺、大本営跡、基町高層アパート、旧陸軍被服支廠など
- ・ 2月24日（金）
 - ⑪ 「戦争と平和の教育学」セミナー：日韓の大学生が「植民地博物館」の展示の在り方、歴史の語り方をめぐって対話した学習報告を聴講
 - ⑫ PELSTE2023 成果報告会：1週間の経験を踏まえ、“Can We Universalize the Localized Peace Education?”の問いに答える。各国研究者との意見交換
（草原和博*・金 鍾成・川口隆行・丸山恭司・桑山尚司・小松真理子・正出七瀬）

Ⅲ ヒロシマの平和教育者の語りアーカイブ

1. 開発のねらいと経緯

PELSTE2021より、オンラインで本プログラムに参加する研究者のために、ヒロシマで平和教育に従事してきた人々の語りを動画に記録し、英語字幕の挿入を含めて記録を編集し、公開してきた。当初は広島を訪問して平和教育者の証言を直接聞くことのできない参加者のための事前学習材としての位置づけだった。しかし、戦後の時代背景を異にする多様な時期に、異なる学校・地域で、異なる専門教科を持ちながら、それぞれの問題意識とアイデンティティに基づいて、様々な団体と連携しながら平和教育を推進してきた教育者の語りを収集し公開することは、広島教育史を記録していく上でも価値あることとの認識に立って、継続して語りのアーカイブ化を続けてきた。

このたび10人の語りを収めることができ、一つの区切りとなった。これを契機に本格的にアーカイブをデザインしなおし、インターネットで全面公開することとなった。これを「ヒロシマの平和教育者の語りアーカイブ」（略称：平和教育者アーカイブ）と称する。本報告書の執筆者を中心とする準備委員会でアーカイブの構成について検討を重ねた結果、以下の構成でデザインすることになった。具体的には、①開発の経緯と目的、②聞き取りの視点と編集の手続き、③語りを理解するための歴史年表、④10人の語りの動画と解説動画、⑤アーカイブ開発に至るまでのEVRIの平和教育への取組、⑥関連リンク集、などを骨格とする。

本アーカイブは、2023年2月24日に正式公開の予定である。前日の2月23日には、アーカイブに記録されている10人の平和教育者が一堂に集い、PELSTE2023の参加者とともに、「ヒロシマの平和教育」の特質や意味を各国の平和教育との比較を意識しつつ対話するセミナーを計画している。本対話は、記録に留め、公開したい。

今後、本アーカイブが教員養成等の場で広く活用されるように、その理念や方法論を提言し、実践事例を蓄積・発信することを考えている。

2. アーカイブの構成

アーカイブは、以下の通り構成する。本稿では、トピックセンテンスと見出しのみを抽出した。詳細は、ホームページで参照いただきたい。

1. アーカイブ開発の経緯と目的

「ヒロシマの平和教育者－「私の平和教育を語る」アーカイブ」（以下、「平和教育者アーカイブ」と略）は、ヒロシマ（広島市に限らない、ヒロシマにゆかりのある土地）の地で平和教育に携わってきた教育者への聞き取り記録である。…以下略…

2. 聞き取りの視点と編集の手続き

ここでは、聞き取りを行った平和教育者の選定の仕方と、聞き取った内容の編集手続きについて述べる。…以下略…

3. 「平和教育者アーカイブ」に関するタイムライン

ここでは、「平和教育者アーカイブ」に関連する出来事を整理した年表と、アーカイブに登場する平和教育者たちのタイムラインを掲載する。…以下略…

4. 「平和教育者アーカイブ」とコメンタリー

平和教育者による語りを掲載する。聞き取りの時期に応じて、第1期から第3期に整理している。あわせて、広島大学の研究者2名による平和教育者の語りについてのコメンタリー（解説）も掲載する。

・第1期（2020年度に聞き取りを実施）

File01_森下弘（25分11秒）

File02_多賀俊介（33分14秒）

File03_野元祥太郎（27分50秒）

Commentary_川口隆行：File01-03について（16分26秒）

Commentary_丸山恭司：File01-03について（7分11秒）

・第2期（2021年度に聞き取りを実施）

File04_松井久治（31分21秒）

File05_梶矢文昭（25分22秒）

File06_橋本一貫（30分59秒）

Commentary_川口隆行：File04-06について（13分04秒）

Commentary_丸山恭司：File04-06について（10分56秒）

・第3期（2022年度に聞き取りを実施）

File07_江種祐司（30分40秒）

File08_忍岡妙子（27分06秒）

File09_牧岡宏明（26分00秒）

File10_有森歩（28分59秒）

Commentary_川口隆行：File07-10について（17分31秒）

Commentary_丸山恭司：File07-10について（6分29秒）

5. 「平和教育者アーカイブ」の理解を深めるために

6. 関連リンク

(草原和博*・川口隆行・丸山恭司・大坂 遊・吉田純太郎)

IV 研究の成果と今後の課題

本稿では、PELSTE2023 の構想と平和教育者アーカイブの開発について報告した。

前者について、今後は過去の PELSTE 参加者とのネットワーク化が課題である。PELSTE2023 の成果報告会では、過去の PELSTE 参加者 2 名を討論者に迎えて、交流の場を意図的に設定することとした。成果報告会での議論は、EVRI 叢書にまとめて刊行予定である。将来的には、“Can We Universalize the Localized Peace Education?”を主たる論点とする国際会議を開催し、成果を発信することが考えられる。

後者については、アーカイブを教員養成の場などで活用するとともに、アーカイブの拡張が課題となってくるだろう。INEI 加盟大学等の研究者の協力を得ることで、世界各地で多様な問題意識と平和概念に基づいて活動している平和教育者の語りを収集し、それを現行のアーカイブに組み込む。そうすることで、平和教育者アーカイブを平和教育研究の基礎的なデータベースへと発展させたい。

なお、アーカイブ作成に当たっては、EVRI のスタッフに献身的なご支援をいただいた。また、以下の皆様には、動画作成を補助いただいた。ここに記して深謝申し上げます。

板野 誠（広島大学大学院人間社会科学研究科・博士課程前期）

岡井 美咲希（広島大学大学院人間社会科学研究科・博士課程前期）

大岡 慎治（広島大学教育学部・学部 4 年）

永田 誠弥（広島大学教育学部・学部 4 年）

(草原和博*・丸山恭司)

引用文献

草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・吉田成章・森田愛子・桑山尚司・佐藤万知(2020)「INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー(1):「PELSTE2020」の成果報告」広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書, 第 18 巻, pp.39-47。

草原和博・松宮奈賀子・三好美織・小山正孝・川口広美・金鍾成・岩田昌太郎・丸山恭司・吉田成章・桑山尚司(2021)「INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー(2):「PELSTE2021」の実施計画」広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書, 第 19 巻, pp.25-32。

草原和博・小山正孝・川口広美・金鍾成・川口隆行・間瀬茂夫・岩田昌太郎・丸山恭司・吉田成章・桑山尚司(2022)「INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー(3):平和教育者アーカイブの構築」広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書, 第 20 巻, pp.43-52。